Role Model
08

24時間体制の仕事に向き合えるのは、家族の支えがあってこそ

本田智子 熊本大学医学部附属病院産婦人科助教

マウス体外受精の体験に魅せられ、産婦人科医に

両親が薬剤師ということもあり、幼い頃から医療現場は身近な存在でした。一浪して熊大医学部に入学し、卒業後は産婦人科研修医、レジデントとして病院に勤務。2002年に結婚、同年大学院生として熊本大学に戻り、『生殖内分泌学』分野の研究に従事しました。その後は続けて出産を経験し、子育てしながらの大学院生活を送りました。その間、生殖補助医療に関する技術を中心に習得し、そのまま現在の診療につながっています。

臨床の場に戻ってからは、大学院時代に習得した知識をもとに、主に思春期内分泌外来や不妊治療に従事。その後、再び2度の出産を経て（4児の母です！）、子育てと仕事の両立をはかりながら、現在は産科病棟主任として24時間体制で働いています。

医師という幅広い専門性を持つ職種のなかで、産婦人科でかつ生殖内分泌分野を専門にしたきっかけは、医学部3年次の基礎演習科目『マウスの体外受精』でした。3週間という短い期間での体験でしたが、その後も時間を見つけてはその教室にお邪魔していました。その時の先生から「体外受精は産婦人科でやっているよ」と言われたのが、すべての始まり。以来、産婦人科ひと筋です。

家は安らぎの場でもありエネルギーの源でも

24時間体制の仕事ですので、家族の理解と協力なしには今の私はあり得ません。夫も同じ医師ですが、彼は病院での仕事を終えた後に、主夫業までこなしてくれますし、また一番下（3歳）の息子は、私の添い寝を必要とせずに上の姉たちと一緒に仲良く寝てくれるようになりました。そんな夫と家で飲み、子どもとじゃれる……これが私のなによりのリフレッシュ法であり、エネルギーの源となっています。

進路を決定するにあたって、必ず女性としての制約（妊娠・出産・子育てなど）が頭に浮かぶと思います。しかし、**確固たる意志を持って**突き進んでいけば、途中回り道しても、必ず道は開けていきます。何が成功で何が失敗かは自分次第。未来ある人生に向かって邁進していってください！

真ん中が子どもたちのお母さんです。上のお兄ちゃん二人、今回の女の子、みんな私がとり上げました！

私の宝ものである4人の子どもたち（+夫）と一緒に海外の学会発表に行くことも（アメリカ・ボストンにて）

Tomoko HONDA

医学部 » 産婦人科医師 » 博士課程 » 医師・大学教員

自分で決めた道だからこそ！頑張っていけるんだと思います

One day

6:30	起床
7:00	子どもを起こし、登校、登園準備
7:40	保育園児の二人とともに出勤
8:30	就業

基本的に産科病棟で、入院、分娩、救急搬送の対応等で終業時間は決まっていない病棟が落ち着いていれば帰宅。（夜中に出向くこともしばしば）

◎座右の銘
母校の校訓「立志篤行」「目標を立て、それに向かって全力で邁進する」という意味

profile

ほんだともこ／熊本大学医学部医学科卒業。1999年より産科婦人科研修医、産婦人科レジデントを経て、2006年熊本大学大学院生命科学研究部博士課程（単位取得退学）。2002年3月に結婚。産婦人科医になるきっかけとなった生殖内分泌学分野の研究に従事。2006年より熊本大学医学部附属病院産婦人科医員、産婦人科診療助手を経て、2012年4月より現職。産婦人科助教、産科病棟主任。日本産科婦人科学会専門医。10歳、9歳、6歳、3歳と4児の母。

アンケートより

Q.男性の方がいいと感じるのはどのような点ですか？
●出産・子育て、家事をしない分時間が自由にできる　●結婚後も帰宅時間を気にしないですむこと
●結婚・出産のタイミングを気にせず仕事ができる